I-6

コワーキングスペースの位置付けに関する研究
類似オフィス施設との比較を通して
A Study on a Definition of Coworking Spaces Through Comparison with Similar Types of Offices

○河村修一[1], 堀切梨奈子[2], 佐藤慎也[2]
Shuichi Kawamura[1], Rinako Horikiri[2], Shinya Satoh[2]

A Definition in Coworking Space and similar Types of Offices are renewed from a literature search and the outline of Coworking Space is made clear by this research.The contents of this research is history and worker , operation purpose , environment of the place in each facilities. A web investigation, a questionnaire survey, hearing and field research are performed to study of Coworoking Space will be studied using this result from now on.

1．序論
1.1　研究背景

近年、ICT の発達や社会構造の変化などにより、ワークスタイルは在宅勤務やコワーキングのように多様化している。そして、従来のような個人や組織が一箇所に固定的に属していたオフィス形態は変化し、必要に応じて協働できる場として、都市に分散した形態が要求されるようになった。それに伴いオフィスは、専門的な施設だけでなく、レンタルオフィスなどのさまざまな人が集まる場へと拡張している。このような場のひとつであるコワーキングスペース（以下、CWS）は、既に数多くつくられはじめており、オフィスに属さない個人・組織に必要とされている。

2010 年より国内に根付きはじめた CWS は、現在全国で 400 施設以上に増加し、東京都内でも 150 施設以上存在するが、働き方や運営方法、空間活用方法などの現状把握は十分ではない。今後も変化を続ける CWS において、類似したオフィス施設との比較を行い、現状を明らかにすることが必要である。

1.2　研究目的

本研究では、CWS と類似施設との相関関係について文献調査を行い、CWS の位置付けを明確にする。これらの結果から、CWS の問題・課題を明らかにすることは、関連する領域の研究者だけでなく、CWS の運営者に対し、空間活用や運営方法の実践に対して有効な示唆を与えるものである。

1.3　研究方法

CWS の定義を行うために、比較する類似オフィス施設を文献より抽出し、各施設の【成り立ち】【利用者】【運営目的】【働く場】の調査を行う。そして、先行研究[注1)]を参考に、CWS の位置付けを明らかにする。

2.　コワーキングの定義

宇田により、コワーキングは「働く個人がある場に集い、コミュニケーションを通じて情報や知恵を共有し、状況に応じて協同しながら価値を創出していく働き方」[1)]と定義され、CWS で働く人はコワーカーと称される。

3.　類似施設との比較

CWS の概要を捉えるために、類似施設であるシェアオフィスや SOHO オフィス、インキュベーション施設、企業オフィスとの比較を行う。また、CWS とフリーランスのシェアオフィスは、【契約体系】[注2)]によって場が異なるために、細分して比較を行う。

対象の各施設が持つ項目を抽出・選定した結果、利用者の【名称】【属性】、働く場の【机の利用形態】【構成】【設備】【サービス】の 6 項目を抽出し、表 1 にまとめた。この結果、企業オフィスと小規模事業者の SOHO オフィス、コワーキングスペースとフリーランスのシェアオフィスにそれぞれ共通点が多いことがわかった。

表 1. CWS と類似施設の比較　①メンバーシップ　②ドロップイン

		CWS	企業オフィス	SOHO オフィス	シェアオフィス	インキュベーション
施設内容		コワーキングを主目的に運営する	中規模以上の企業	10 人以下の個人・小規模事業者	複数の事業者や利用者で共同利用する	JANBO により定められる必要要件を満たす施設
利用者	名称	コワーカー	組織人	フリーランス 小規模事業	フリーランス 組織人 小規模事業	フリーランス
	属性	組織人 小規模事業者 フリーランス 学生	組織人	フリーランス 小規模事業者	組織人・小規模事業者 フリーランス・学生 etc 小規模事業者	フリーランス
働く場	机	①専用・共同 ②共同	専用	専用 専用	①専用・共同 ②共同 専用	専用
	構成	①個室・ブース ②共同スペース	個室・ブース	個室 専用部屋	①個室・ブース ②共同スペース 専用部屋	個室・ブース
	設備	多目的な設備 ・AO 機器 ・イベント設備	業務設備 ・AO 機器 ・受付などの設備	業務設備 ・AO 機器 ・受付などの設備	多目的な設備 ・AO 機器 ・イベント設備	支援内容ごとの設備
	サービス	・コワーキングが行える環境整備 ・コミュニティの誘発	―	・事業に関するサービスは充実している	・事業を促進するサービスに加えて、それ以外のサービスも充実	・利用者の支援を行う、さまざまな知識を持つマネージャーがいる

1: 日大理工・院（前）・建築　2: 日大理工・教員・建築

4.　コワーキングスペースの位置付け

コワーキングスペースの位置付けのために、宇田による文献[注3)]を参照し、【接触度】【多様度】【近接度】【開放度】の観点から、利用者・場の比較を行った。また、本研究では、比較対象にシェアオフィスを付加し、【成り立ち】【運営目的】【設備】【サービス】などの調査項目を追加することで、CWS の位置付けを明らかにしている。

4.1　利用者の比較

【接触度】は他者との物理的な接触やコミュニケーションの程度、【多様度】は仕事場で交流する他者の属性の多様さの程度を表している。【接触度】【多様度】を用いて、表 1 でみられた利用者の関係性を表 2 に示す。

表 2. 利用者の比較

		コワーカー	組織人	小規模事業者	フリーランス
接触度	内容	自己でコミュニケーションを制御することができるため、他者との接触はフリーランスよりも高い。	仕事場に同じ事業を行う同僚がおり、仕事を行う段階で他者との接触が強制されるために高い。	仕事場に同じ事業を行う同僚がおり、仕事を行う段階で他者との接触が強制されるために高い。	事務所内が仕事場であるため、他者との接触が限定される。
	関係	フリーランス＜コワーカー＜組織人≒小規模事業			
多様度	内容	ワーカーは交流を求めて利用しているために、多様な他者とのコミュニケーションが偶発的に発生する。	組織内で働くために他者の多様度が極めて低い。	事業所内で働くために他者の多様度は低いが、組織人よりも自立性が高く自由であるために、組織人より高い。	自立性を有するために高いが、多様な他者とコミュニティがあるコワーカーよりも低い。
	関係	組織人＜小規模事業者＜フリーランス＜コワーカー			

4.2　働く場の比較

【近接度】は他者のワークスペースとの物理的近さの程度、【開放度】は働く場が外部に対して開かれている程度を表している。【近接度】【開放度】を用いて、表 1 でみられた働く場の関係性を表 3 に示す。

表 3. 働く場の比較

		a. CWS	b. 企業オフィス	c. SOHO	d. シェア	e. インキュベーション
近接度	内容	仕事場の主体は共同机で、個室・ブースがあるために c-1、d-1 よりは高い。しかし、d-1 のほうが、近接度は近い。	仕事場が、同事業者と共同であるために極めて高く、c-2、d-2 と同等。	c-1. フリーランス 仕事場が専用の個室のため、近接度は極めて低い。 c-2. 小規模事業者 仕事場が、同事業者と共同であるために極めて高く、b、d-2 と同等。	d-1. フリーランス 仕事場の主体は専用の個室だが、共同机があるため c-1 より高く、a より低い。 d-2. 組織人・小規模 仕事場が、同事業者と共同であるために極めて高く、b、c-2 と同等。	仕事場は専用の個室・ブースのため、c-1 よりは高いが、仕事場を共有する a、d-1 よりは低い
	関係	c-1 ＜ e ＜ d-1 ＜ a ＜ b ≒ c-2 ≒ d-2				
開放度	内容	ドロップインが基本的にあり、多属性の利用者がいつでも利用できるために極めて高い。	組織のワーカー及び関係者以外の出入りが限定されており、極めて低い。	c-1. フリーランス b、c-2、d-2 よりは高いが、多属性が利用する a、d-1 より低い。 c-2. 小規模事業者 b よりもルールに柔軟性があるために高いが、d-2 よりも低い。	d-1. フリーランス 多属性が利用するために、c-1 より高いが、ドロップインが基本的な a よりは低い。 d-2. 組織人・小規模 JV 事業などで利用されるために、c-2 より高いが、ルールの無い c-1 よりは低い。	主に公的機関によって運営されており、地域に開かれているために c-1 よりも高いが、入退去審査などがあるために、d-1 よりも低い。
	関係	b ＜ c-2 ＜ d-2 ＜ c-1 ＜ e ＜ d-1 ＜ a				

4.3　場の位置付け

以上の結果より、CWS の位置付けを作成した（図 1）。CWS と共通点が多いフリーランスのシェアオフィスとは、【机の利用形態】【契約体系】により、【近接度】【開放度】に違いがあると考えられる。

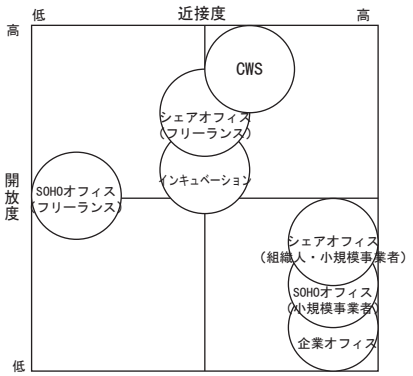

図 1. コワーキングスペースの位置付け

5.　結論

CWS はフリーランスのシェアオフィスと共通点が多く、その結果、フリーランスのシェアオフィスは CWS と区別することが難しいと考えられる。一方でシェアオフィスでは事業機会を得るためにコワーキングを取り入れている事例が存在しており、コワーキングを実践する環境の形成が主体である CWS とは本質的な違いがある。これにより、【運営目的】や【ゾーニング】などのソフト・ハード面に違いが生じていると思われる。また、共同スペースが主体であることや、ドロップインの事例が多い CWS は、【近接度】【開放度】の観点からも、シェアオフィスとは相違するものであると考えられる。

［注釈］

注 1) 宇田は参考文献 1) において、働く個人と働く場の２つの概念に基づき、関連する概念との比較検討を通じて、CWS の理論的位置付けを行っている。

注 2) 契約体系は大きく２つに分けられる。メンバーシップは、日常的に施設を利用する対象者が、通常月単位で利用料を支払う。ドロップインは、月単位ではなく、一回ごとに利用料を支払う。

注 3) 参考文献 1)pp.117-121 の接触度と多様度、近接度、開放度を引用のうえ、図 1 を元に位置付けを示す。

［参考文献］

1) 宇田忠司：コワーキングの概念規定と理論的展望，経済学研究，北海道大学 ,pp.115-124,2013.11

2) 金丸利文・齋藤敦子：異分野・異文化の「個」がつながる共創の場　クリエイティブ・ラウンジ・モヴ, 日本テレワーク学会誌 ,Vol.13 NO.2,pp.17-21,2015

3)R. ボッツマン・R. ロジャース：シェア　共有からビジネスを生み出す新戦略 , 日本放送出版協会 ,2010.12

4) 阿部篤・堀田竜士・植木貞彦・関谷虹・堀口徹・本江正茂：TRUNK -Creative Office Sharing- 仙台市卸町におけるまちづくりの一環としてのシェアオフィスの設計，日本建築学会建築デザイン発表梗概集，pp.180-181,2010.7

5) 猪熊純・成瀬友梨・門脇耕三 他編：シェアをデザインする　変わるコミュニティ、ビジネス、クリエイションの現場 , 学芸出版社 ,2013.12

6) 加納郁也：新たなライフスタイルとしの SOHO　SOHO 概念の再検討，日本テレワーク学会誌 ,Vol.2 No.1,pp.97-106,2003.3